

博士前期課程(修士) / 助産看護学領域 / 助産看護学分野
科目コード:280013

助産実践実習 I -2(正常) Midwifery Practicum I -2(Normal nursing)

担当教員	曾山 小織、亀田 幸枝、河合美佳				
実務経験					
開講年次	2年次前期	単位数	3	授業形態	実習
必修・選択	選択	時間数	135		
Keywords	ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例				
学習目的・目標	学習目的: 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対して、助産師としての職業倫理と女性中心のケア(尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック)・家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個性を重視した、根拠に基づく助産実践ができる。 2. 様々な助産の場や人々との関わりを通じて、専門職としての役割と行動、多職種との連携等を理解し、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 学習目標: 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に、生理的経過と健康状態を促進する助産過程を展開し(観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価)、実践できる。 2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について理解できる。 3. 職業人となるに向けて助産師職の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を示すことができる。 4. 自己の助産師像をイメージし助産観を表現できる。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
	<u>妊娠期実習</u> 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦の妊婦健康診査を行う。 <u>分娩期実習</u> 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行い、分娩進行に伴う産婦と家族へのケアおよび分娩介助を行う(助産実践実習Ⅰ-1と合わせて10例以上)。 出生直後の母子接触、早期授乳への支援、分娩想起への支援を行う。 <u>産褥・新生児期実習</u> 褥婦の産後の回復や新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。 * 詳細は実習要項参照			実習	曾山 亀田 河合
教科書	各種講義で使用したテキスト				
参考図書等	随時紹介する				
評価指標	実習評価表に準ず				
関連科目	助産診断・技術特論演習Ⅰ(概論・妊娠期)、助産診断・技術特論演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術特論演習Ⅲ(産褥期・新生児期・乳幼児期)、助産診断・技術特論演習Ⅳ(ハイリスク)、助産実践実習Ⅰ-1(正常・継続)				
教員から学生へのメッセージ	助産実践実習Ⅰ-1で学んだ知識と技術を深め、妊産褥婦・新生児とその家族の健康を促進し、より満足のいく妊娠・出産・育児となるように支援していきましょう。				